

都市のカルチュラル・ナラティヴ

Collective

Memory

COLLECTIVE
MEMORY

地域の文化と記憶を映像資料で読み解く

ラーニング・ワークショップ

コレクティヴ・メモリー 3 技術編

「バクトゥザフューチャー：未来を記録したもの1」

ゲストスピーカー：三浦和己(国立映画アーカイブ)

司会進行：久保仁志(慶應義塾大学アート・センター)

日時：2023年9月27日(水) 17:00~20:00

タイムテーブル・会場

【第一部】17:00~

「ビデオのデジタル化実践とアーカイヴ収蔵庫見学」

慶應義塾大学三田キャンパス南別館2階

アート・センター内収蔵庫

【第二部】18:00~

「トークセッション/ディスカッション」

慶應義塾大学三田キャンパス南校舎451教室

対象：どなたでもご参加いただけます

定員：20名

(第一部は10名限定、20代以下を優先いたします。応募多数の場合は抽選)

費用：無料

第一部のみ、または第二部からの参加も可能です。
本企画は、ディスカッションを取り入れたラーニングワークショップです。
受講にあたっては、積極的な参加と発言が期待されています。

コレクティヴ・メモリー3 技術編 (全2回)



第2回は秋学期中に開催予定。

追って詳細は慶應義塾大学アート・センターホームページにてご確認ください。

<http://www.art-c.keio.ac.jp/research/research-projects/cunary/>

都市のカルチュラル・ナラティブ

地域の文化と記憶を映像資料で読み解く ラーニング・ワークショップ コレクティブ・メモリー 3 技術編

私たちが行ってきた「コレクティブ・メモリー」では、個人の持っている記憶を地域や集団の記憶として公共化することについて「写真」を切り口に学んできました。都市において文化やコミュニティの分断を防ぎ、蓄積されてきた文化の接続をはかることは、大きな課題です。新旧コミュニティのコミュニケーションの創出を目指し、2年間におよぶ活動を行ってきました。

今回は動画の記録媒体であるフィルムやビデオ・テープに主眼を置きます。さまざまなデジタル・データが私達のコミュニケーションの中心的メディアとなる一方で、最近敢えてレコードを買い求めたり、フィルムで写真や映像を撮影したりする流行が起こっています。デジタルとアナログの記録メディアの差異とは何でしょうか。アナログメディアのデータをデジタル化すればそれで事足りるのでしょうか。このラーニング・ワークショップは、個人を通じた地域の記録を発掘、保存することを目的として、まずはメディア論と歴史の問題を絡ませながら、メディアの移行に関して議論をしていきます。公的に重要だと見なされる映像だけを対象とするのではなく、ホーム・ムービーなどの私的な映像も重要な記録対象として捉えます。

第一部では、若年層の参加者を中心にアート・センターの収蔵庫で資料やデジタル化の現場を見学する機会を設けます。アナログ媒体を扱っていた技術者の多くが定年を迎える今、デジタル偏重に陥らずアナログの技術を若い世代に伝達すること、またデジタル化を通して自らの手で資料保存のDX化をはかるためにまずは指針を構築することを目指します。

第二部では、国立映画アーカイブから講師をお招きします。世代の別なく大量廃棄する時流の中でデジタル化の重要性を再確認しつつ、「もの」を存続させることの重要性を改めて考えるためのディスカッションを行います*。

*2021年に国立映画アーカイブが「マグネティック・テープ・アラート：膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること」というフォーラムを開催しました。2025年までにデジタル化されなければ磁気データが失われかねないと、継承を行う上での一つの基準が提示されました。

お問い合わせ
「都市のカルチュラル・ナラティブ」プロジェクト
慶應義塾大学アート・センター（担当：石本・木原）
Tel. 03-5427-1621 cunary@art-c.keio.ac.jp

お申し込み方法

下記のフォームまたは、QRコードよりお申し込みください。

〆切：9月18日(月)

<https://forms.gle/3sEmh7oNKXqmU7QD>



講師：三浦和己（みうら かずき） Kazuki Miura

独立行政法人国立美術館国立映画アーカイブ
主任研究員

2000年、株式会社IMAGICA（現IMAGICA EMS）入社。フィルムプロセス機器のメンテナンス、改良に従事。その後、映像・音声の修復業務、デジタルリマスターに関する技術コーディネート業務を経て、2014年より現職。フィルム映画及びデジタル映画の保存、復元等を担当している。

コーディネーター

石本華江（慶應義塾大学アート・センター 所員）

久保仁志（慶應義塾大学アート・センター 所員）

主催：「都市のカルチュラル・ナラティブ」
プロジェクト実行委員会
慶應義塾大学アート・センター
助成：令和5年度文化庁
Innovate MUSEUM 事業

